

下河原館（内館）跡

集合住宅建設に伴う緊急発掘調査

2019

序 文

一般財団法人奥州市文化振興財団は、「感動を創り、感動を共有する、歴史・文化・スポーツの活動」「心豊かな子どもを未来に翔たかせる文化・スポーツの創造」を事業理念としています。

奥州市埋蔵文化財調査センターでは事業理念の下、国指定史跡胆沢城跡をはじめとした歴史遺産の積極的な公開と地域に眠る埋蔵文化財の記録保存・調査研究に取り組んでいます。本書は、記録保存を目的として行われた発掘調査の成果を公表するものです。

下河原館(内館)跡は、集合住宅建設により、遺跡の一部が失われるところから記録保存を目的として調査を行いました。本遺跡は、縄文時代中期の集落跡、中世の城館跡であることが判明しました。現在でもこの地域には、城館に伴う堀跡・土塁跡が残ります。また、別名、「内館」とも呼ばれ、遺跡に隣接する東館Ⅰ・Ⅱ遺跡を含めた大規模な城館と考えられます。本書をご高覧賜りまして、ご教示いただければ幸いに存じます。

最後になりますが助言をいただいた奥州市教育委員会並びに関係機関の皆様、ご指導、ご鞭撻をいただいた関係諸氏の皆様、周辺住民の方々や作業に従事された皆様に厚くお礼申し上げます。

2019年8月

一般財団法人 奥州市文化振興財団
理事長 菅原 義子

例　　言

- 1 本書は、集合住宅建設に伴い、平成30年度に実施された下河原館(内館)跡の緊急発掘調査の報告である。
- 2 岩手県の遺跡台帳に登録されている遺跡番号及び遺跡の略号は、NE16-0305である。
- 3 調査対象面積は300m²で、調査実施面積は241m²である。
- 4 発掘調査は平成30年10月5日から11月8日まで、整理作業は平成30年11月1日から平成31年3月30日まで実施した。
- 5 発掘調査および整理作業(原稿執筆・編集)は、遠藤栄一・中村晃菜が担当した。
- 6 野外調査に伴う出土遺物および諸記録、室内整理の諸記録は、奥州市埋蔵文化財調査センターに保管している。
- 7 空中写真撮影は、トーパン印刷株式会社に依頼した。
- 8 SD01溝(堀)跡は、集合住宅建設が、遺構検出面よりも深く掘削しないため、一部のトレーナー掘削調査のみ行った。また、SX20は排水溝工事による立会い調査で検出し、それよりも深く掘削しないことから、遺構確認のみを行った。
- 9 本報告書の作成にあたり、次の諸氏からご指導、ご協力をいただいた。
調査協力：積水ハウス株式会社岩手支店　繩文土器鑑定指導：岩田貴之

凡　　例

- 1 第1図は、国土地理院発行の『奥州市管内図1/50000』、第2図は奥州市発行の『都市計画図1/2500』を複製して使用した。
- 2 座標は、世界測地系である平面直角座標X系を用い、座標単位はkm、高さは標高値を載せてある。
- 3 土層観察にあたっては、「新版標準土色帳」(小山正忠・竹原秀雄 1995年度版)を参考にした。
- 4 遺構名称は、溝(堀)跡「SD」、堅穴建物跡「SI」、土坑跡「SK」、柱穴状ピット「P」、遺構内柱穴状ピット「PP」、その他は「SX」とした。なお、遺構番号は野外調査時に遺構別の連番で付し、そのまま本報告で掲載したが、整理時に搅乱・根穴と判断された遺構番号は削除・欠番としている。
- 5 遺構図版の縮尺には、それぞれスケールを付した。遺物図版には縮尺に応じてスケールを付したものと、遺物番号に縮尺を記載したものがある。スケールの単位は遺構がm、遺物がcmである。
- 6 遺構平面図は、上部が真北を示している。それ以外には方位を付した。
- 7 遺物番号は、連番を付した。
- 8 遺物写真図版の縮尺は、1/3を基本とし、それ以外は遺物番号に縮尺値を付した。

目 次

序 文	
例 言	
凡 例	
I 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	1
II 調査の概要	
1 調査に至る経緯	4
2 調査の経過	4
III 検出された遺構と遺物	
1 基本土層	4
2 溝跡	4
3 壁穴建物跡	7
4 土坑跡	10
5 不明遺構	13
6 柱穴状ビット	15
7 遺構外遺物	15
IV まとめ	18
写真図版	21
報告書抄録	32

図版・表目次

[挿図]

第1図 遺跡分布図	2	第8図 SI19壁穴建物跡	10
第2図 遺跡周辺現況図	3	第9図 土坑跡(1)	12
第3図 遺構配置図	5	第10図 土坑跡(2)	13
第4図 SD01溝(堀)跡	6	第11図 不明遺構(1)	14
第5図 SD10溝跡	7	第12図 不明遺構(2)	15
第6図 SI17壁穴建物跡(1)	8	第13図 柱穴状ビット	16
第7図 SI17壁穴建物跡(2)	9	第14図 遺構外遺物	17

[挿表]

第1表 遺跡一覧表	2	第2表 遺物観察表	19
-----------------	---	-----------------	----

[写真図版]

写真図版1 調査区(1)	23	写真図版3 SD01(2)・SD10・SI17(1)	25
写真図版2 調査区(2)・SD01(1)	24	写真図版4 SI17(2)・SI19・土坑跡(1)	26

写真図版 5	土坑跡(2)	27	写真図版 8	出土遺物(1)	30
写真図版 6	土坑跡(3)	28	写真図版 9	出土遺物(2)	31
写真図版 7	土坑跡(4)・不明遺構	29			

I 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

下河原館(内館)跡が所在する岩手県奥州市は、岩手県南の内陸部に位置する。西側の奥羽山脈と東側の北上山地に挟まれた南北に長い北上盆地にあって、市の中央部には盛岡市から宮城県石巻市まで南流する北上川がある。奥州市は、総面積993.35km²、人口11万7千人を有する県内第3の人口規模を持つ市である。その市域は北が北上市・金ヶ崎町・西和賀町・花巻市、南が一関市・平泉町、東は遠野市・住田町、西が秋田県東成瀬村と隣接する。

奥州市の地形は、北上山地西部の丘陵地帯、奥羽山脈から東流する胆沢川によって形成された胆沢扇状地と、その間にあら中央部を北上川が南流する北上川継谷の三地形からなっている。胆沢扇状地は、西の焼石岳(1548m)を源とする山岳地帯から運ばれた土砂が堆積し、洪積世に形成された特異な扇状地であり、北の胆沢川、南の北股川・衣川、東の北上川によって囲まれた三角状を呈し、扇頂部である胆沢若柳字市野々付近で標高240m、胆沢南都田北東部の水沢段丘上で標高65m、胆沢小山南東部の一首坂段丘上で標高130mを測る。また、この形成過程においては、大規模な隆起や沈下が繰り返され、この影響で胆沢川の流路は南から北に変り、現在の位置を流れるために6つの河岸段丘からなる扇状地を形成している。河岸段丘は南の高い方から一首坂段丘・上野原段丘・横道段丘・堀切段丘・福原段丘・水沢段丘と続き、一番低い水沢段丘は高位面と低位面とに分類される。

下河原館遺跡は、低位段丘である水沢段丘高位面の縁辺部付近、標高49mに立地する。遺跡の北側には、蛇行する北上川があつて、古くから水沢市街地と江刺市街地を結ぶ交通の要衝でもある。

2 歴史的環境

下河原館(内館)跡の周辺には、縄文時代から中世に至るまでの多くの遺跡が点在している。遺跡の地形的特徴としては、北上川を挟んで西岸地域(奥州市水沢佐倉河)が水沢段丘高位面上、東岸地域(奥州市江刺愛宕)が自然堤防上に立地する。

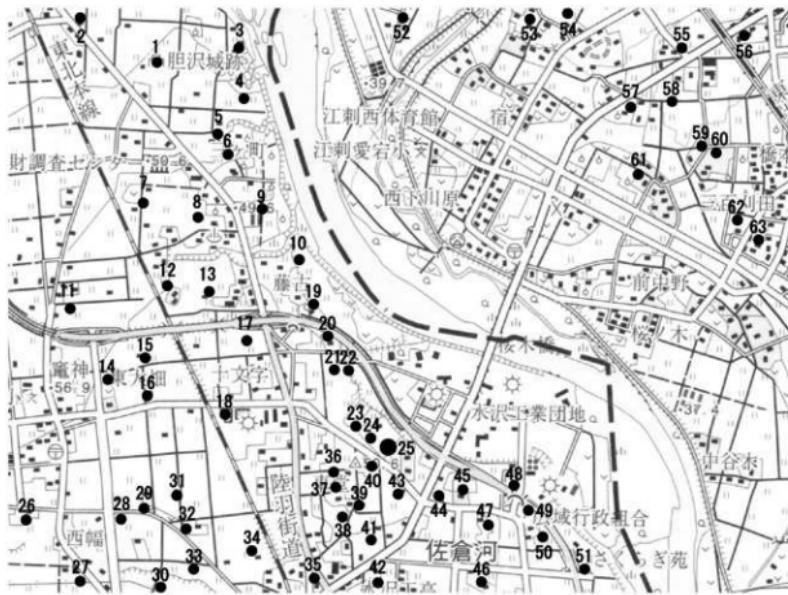
縄文時代は、下河原館(内館)跡の東側に隣接する根岸遺跡(40)や、里槍遺跡(27)など主に晚期を中心とした遺跡がある。

古代は、北上川西岸に鎮守府胆沢城跡(1)や伯濟寺遺跡(8)などの古代城柵・官衙関連遺跡があつて、北上川東岸には宮地遺跡(56)・三百刈田遺跡(62)などの集落遺跡が点在する。

中世では、北上川南岸に15～16世紀の城館跡である白井坂I遺跡(19)、白井坂II遺跡(20)、東館I遺跡(23)、東館II遺跡(24)、15世紀の方形館跡が検出された仙人西遺跡(45)などが所在し、下河原館(内館)跡周辺は城館密集地帯でもある。また、北上川東岸には池向城跡(59)も所在している。

【参考文献】

- ・(財)水沢市埋蔵文化財調査センター 1997『仙人西遺跡』(水沢市埋蔵文化財調査センター報告書第8集)
- ・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997『白井坂I・II遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第248集)



第1図 遺跡分布図

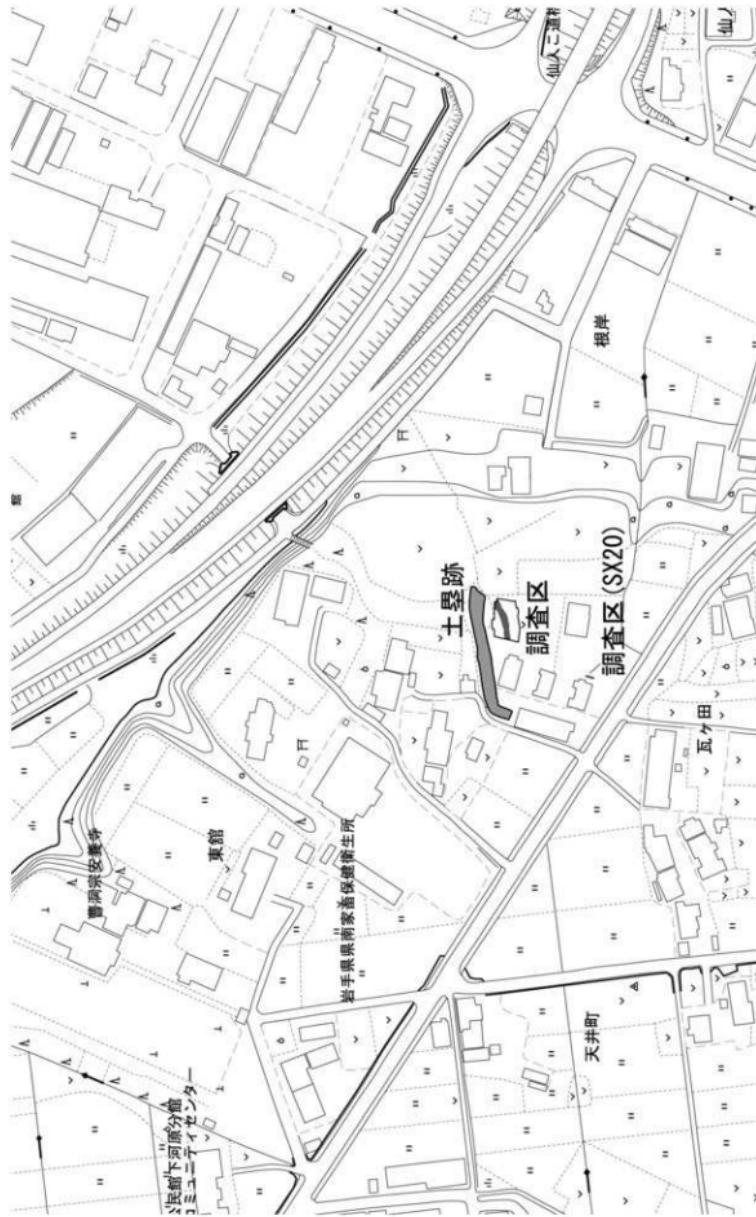
S=1/25000

第1表 遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別
1	胆沢城(方八丁)	平安	城壁跡	32	久田	平安	散布地
2	八ツ口	平安	集落跡	33	南久田	平安	散布地
3	北館(川端館)	奈良・平安・近世	散布地・城館跡	34	元宿	平安	散布地
4	祇園	平安	集落跡	35	下河原源石	平安	散布地
5	三ヶ町	平安	散布地	36	天井ノ町	礪文	散布地
6	権現堂	奈良	集落跡	37	瓦ヶ田	礪文	散布地
7	外和田	平安	散布地	38	車掌	礪文	散布地
8	伯舎寺	平安	集落跡・官衙跡	39	桐山屋敷	礪文・中世	散布地・城館跡
9	八幡舎	礪文	集落跡	40	岸	礪文	散布地
10	藤古	礪文・平安	集落跡	41	佐野原	礪文・平安	集落跡
11	大曾根	礪文	散布地	42	鳴臥林	平安	散布地
12	杉本Ⅰ	平安	集落跡	43	根岸南	礪文	散布地
13	杉本Ⅱ	礪文	散布地	44	仙人北	礪文	散布地
14	東大畑Ⅰ	礪文・平安	集落跡	45	仙人西	平安	集落跡
15	東大畑Ⅱ	平安	散布地	46	高谷	礪文・平安	散布地
16	東大畑	平安	集落跡	47	南板坂	平安	散布地
17	蓮堂	平安	散布地・祠社	48	仙人東	弥生・平安	集落跡
18	蓮堂Ⅱ	中世	集落跡	49	沢田	礪文・平安	散布地
19	白井坂Ⅰ	中世	城館跡	50	東巣治堀	礪文・平安	散布地
20	白井坂Ⅱ	中世・平安	城館跡・集落跡	51	蟹沢	平安	集落跡
21	吹張Ⅱ	平安	散布地	52	林	奈良・平安	散布地
22	吹張Ⅰ	平安	散布地	53	馬場先	古代	散布地
23	東館Ⅰ(泥沙門跡)	中世	散布地・城館跡	54	馬場先Ⅱ	古代	散布地
24	東館Ⅱ	平安	散布地	55	觀音堂沖Ⅰ	古代	散布地
25	下河原跡(内筋)	礪文・中世	散布地・城館跡	56	宮代	礪文・古代	集落跡
26	幡下	礪文	散布地	57	愛宕荒川	奈良・古代	集落跡
27	里繪	礪文	集落跡	58	觀音堂沖Ⅱ	古代	散布地
28	東幅	礪文	散布地	59	酒向城(田谷城)	古代・中世	集落跡・城館跡
29	櫻塚	平安	散布地	60	酒南	古代	散布地
30	中城	礪文	散布地	61	後中野	礪文・古代	集落跡
31	道本	平安	散布地	62	三百刈田	礪文・古代	集落跡
32	西丸	古代	散布地				

S=1/2500

第2図 遺跡周辺現況図



II 調査の概要

1 調査に至る経緯

下川原館(内館)跡の発掘調査は、平成30年6月21日に奥州市教育委員会より照会があり、本発掘調査の協議を実施することとなった。同年9月20日付奥教歴第467号で調査経費の積算を求められ提出。この積算に基づいて原因者、教育委員会、一般財団法人奥州市文化振興財団の3者により調査計画を作成し、3者による協定書を締結。調査経費の3割を教育委員会、7割を原因者が負担し奥州市文化振興財団が各々と発掘調査業務契約を締結して調査を実施した。

2 調査の経過

発掘調査は、10月5日に重機による表土剥ぎ、同月10日に作業員による遺構検出作業を開始した。11月5日には、遺構精査が概ね終了し、空中撮影を行った。同月7日には、奥州市教育委員会歴史遺産課立会いの下、終了確認を行った。同月8日に補足調査後、調査を終了した。

III 検出された遺構と遺物

1 基本土層

調査区の基本土層は、上位から第Ⅰ層(造成土)、第Ⅱ層(黒褐色の旧表土)、第Ⅲ層(黄褐色の遺構検出面)に分層される。特に第Ⅲ層より縄文土器が出土している。

2 溝跡

SD01溝(堀)跡

SD01溝(堀)跡は、調査区中心部に位置する東西の溝跡である。西からA・B・Cトレンドを設定し、掘削を行った。遺構はSI19堅穴建物跡とSX03不明遺構と重複し、SI19・SX03よりも新しい遺構である。遺構の規模は、東西全長20m以上、溝幅2.8～3.5m、深さ0.1～0.6mを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は自然堆積である。この溝(堀)跡は、北側に隣接する土塁跡とやや平行していることから城館あるいは近世の屋敷地に伴う溝(堀)跡の可能性がある。

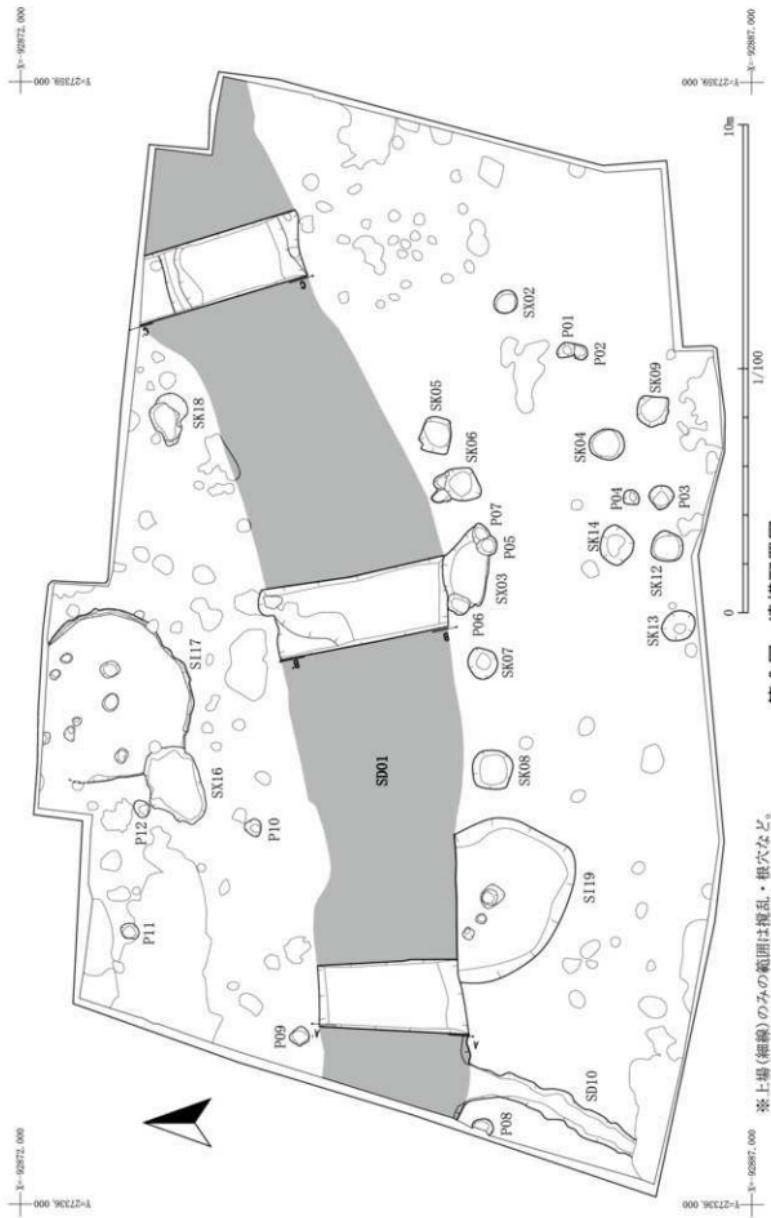
遺物は、磁器染付碗(1)、石棒?(2)、磨製石斧(3)、磨石(4)の他、縄文土器、土師器、須恵器などの土器細片が含まれる。これらの遺物は周囲からの流れ込みと考えられる。

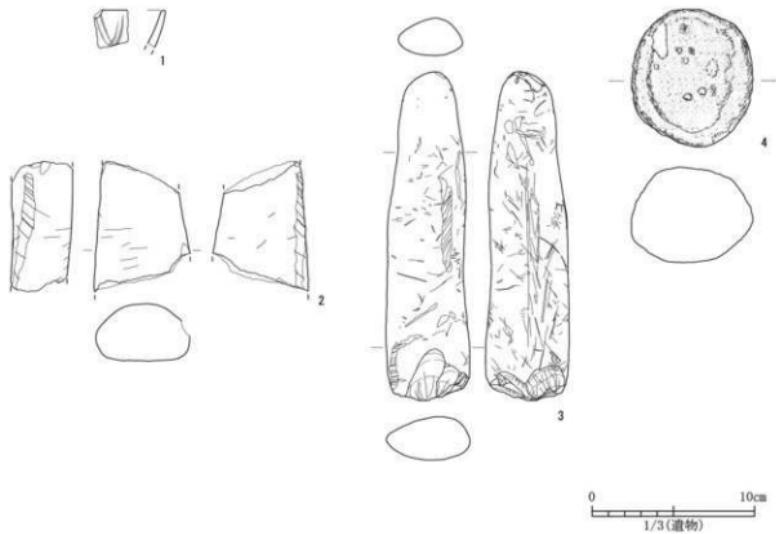
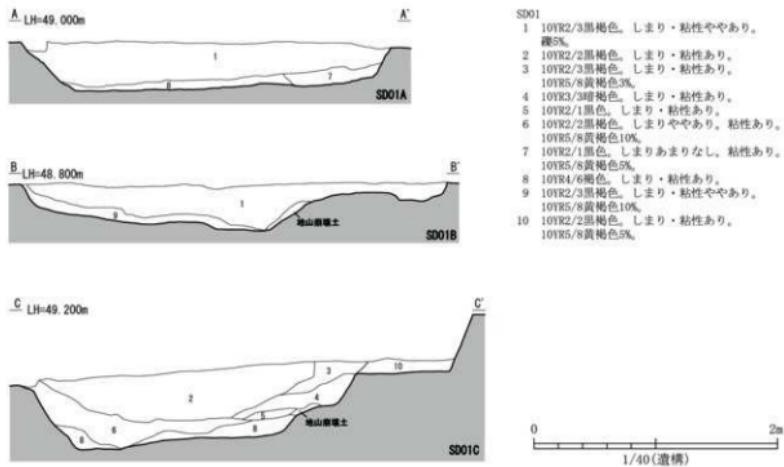
SD10溝跡

SD10溝跡は、調査区の南西付近に位置する南北の溝跡である。遺構はSD01溝(堀)跡と重複し、SD01溝跡よりも古い遺構である。南側は搅乱によって消滅している。遺構の規模は、南北全長3.6m以上、溝幅0.3～0.7m、深さ0.1mを測る。底面は凹凸が見られる。埋土は自然堆積である。

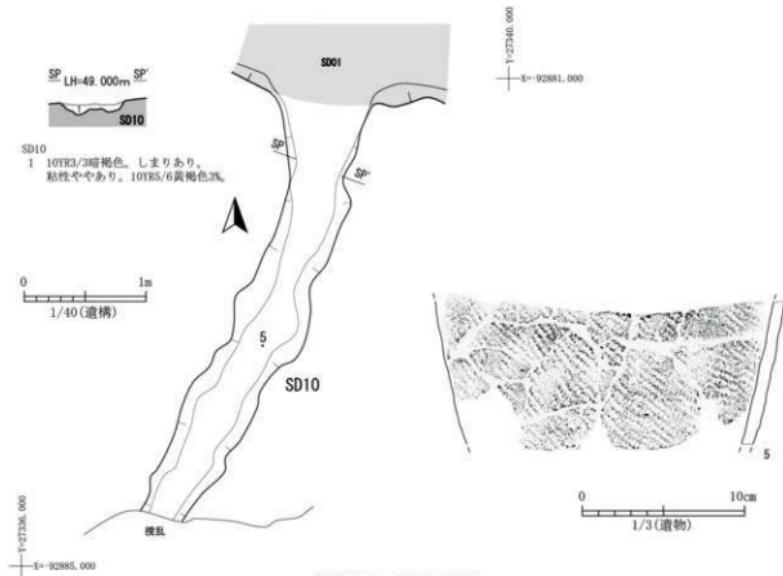
遺物は、縄文土器深鉢(5)が出土しているが、流れ込みの遺物と考えられる。

第3図 遺構配置図





第4図 SD01溝(堀)跡



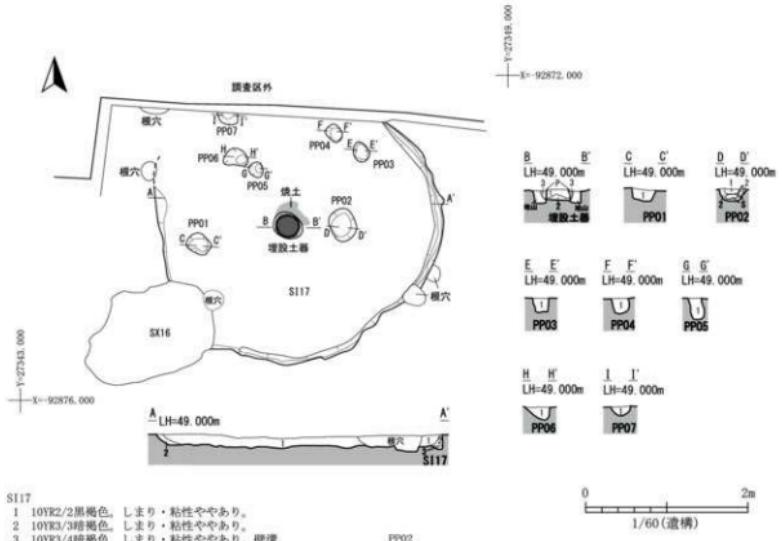
第5図 SD10 溝跡

3 堅穴建物跡

SI17堅穴建物跡

SI17堅穴建物跡は、X=-92876、Y=+27343付近に位置する。遺構は北側が調査外で、一部が削平されている。また、SX16不明遺構と重複し、SX16よりも古い遺構である。遺構の規模は、東西3.5m、南北3m以上の円形で、深さが0.1～0.2mを測る。埋土は自然堆積であるが、一部が根穴などによって破壊されている。遺構内には、埋設土器・壁溝、ピット(柱穴)が検出されている。埋設土器は、縄文土器深鉢(6)で、口縁部から胴部上半が埋められており、胴部下半部は欠損している。その周囲には、わずかな焼土範囲を見られるが、炉であるかは不明である。壁溝は幅0.1～0.15m、深さ0.2mを測り、西側は削平されている。ピットは7基(PP01～07)が検出されているが、いずれも柱痕は確認されなかった。PP02は、直径0.3～0.4mで深さ0.15mを測り、底面中心部とその周囲に礫が出土している。また、埋土中から被熱痕の見られる礫や石皿(9・10)が出土している。これは埋土第1層が柱底で、底面の礫が磁石のような役割をもつ可能性がある。PP01は直径0.25～0.3mで深さ0.15m、PP03は直径0.2mで深さ0.15m、PP04は直径0.2mで深さ0.2m、PP05は直径0.15mで深さ0.25m、PP06は直径0.2～0.3mで深さ0.15m、PP07は直径0.25mで深さ0.1mを測る。床面は、ほぼ全体が硬化しているが、床面の掘り方埋土に確認されないところから、貼床を敷設していた痕跡は見られない。

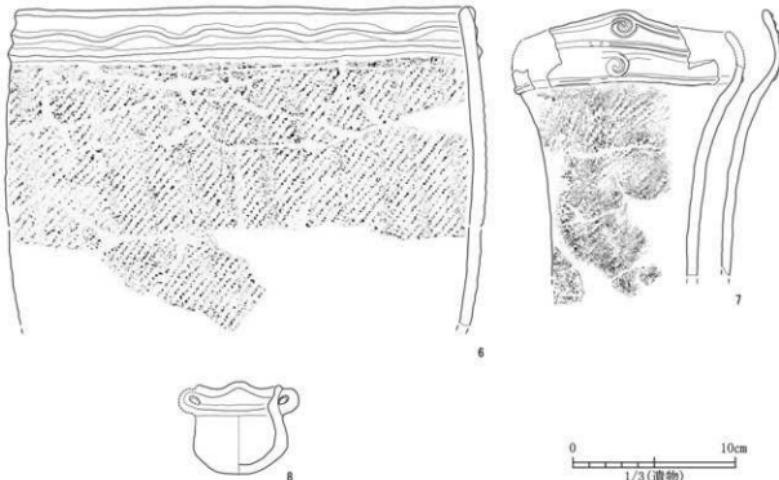
遺物は、埋土中より縄文土器(6～8)、石皿(9・10)が出土している。



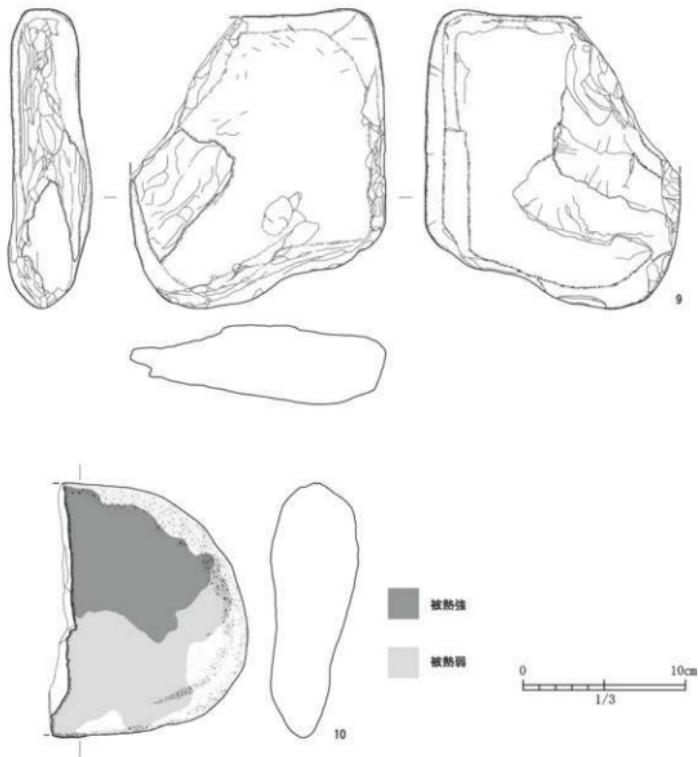
SI17
 1 10YR2/2 黒褐色。しまり・粘性ややあり。
 2 10YR3/3 暗褐色。しまり・粘性ややあり。
 3 10YR3/4 暗褐色。しまり・粘性ややあり。砂礫

埋設器
 1 10YR2/3黒褐色。しまり、粘性ややあり。燒土。
 2 7.5YR3/2黒褐色。しまりややあり。粘性。
 3 10YR3/3黒褐色。しまり、粘性あり。10YR5/6黄褐色40%。
 PP01・PP05・PP06・PP07
 1 10Y2/3黒褐色。しまり、粘性ややあり。

PP02
 1 10YR2/3黒褐色。しまり・粘性ややあり。
 10YR2/3黒褐色。しまり・粘性ややあり。10YR5/6黄褐色ブロック10%。
 PP03
 1 10YR2/3黒褐色。しまり・粘性ややあり。燒土・炭化粒1%以下。
 PP04
 1 10YR2/3黒褐色。しまり・粘性ややあり。10YR5/6黃褐色3%



第6図 SI17 竪穴建物跡(1)

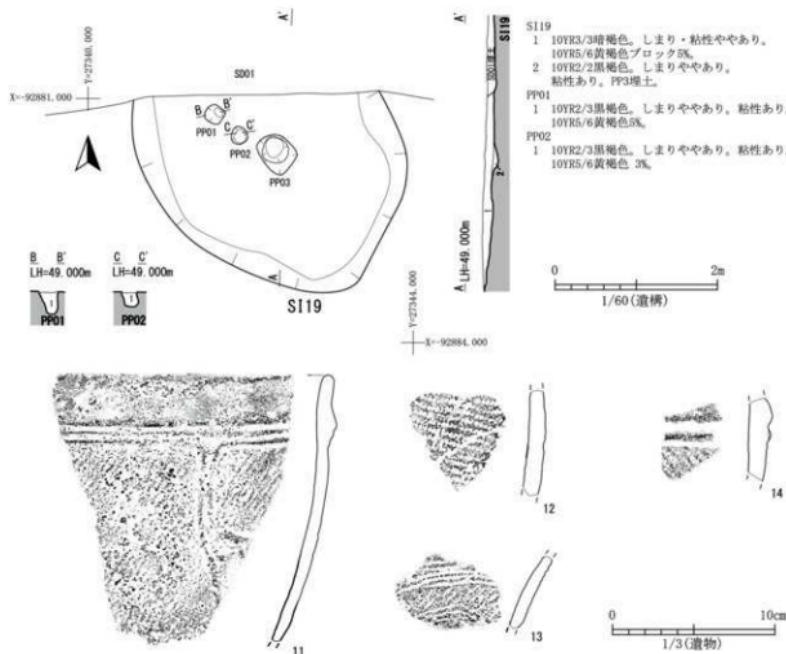


第7図 SI17 穫穴建物跡(2)

SI19竪穴建物跡

SI19竪穴居跡は、X=-92881、Y=+27340付近に位置する。遺構はSD01溝跡と重複し、SD01よりも古い遺構である。遺構の規模は、東西3.3m、南北2.4m以上の不整形で、深さが0.1mを測る。方位は遺構の形状が不整であることから、そのプランは確認できない。SI17竪穴建物跡と同様な円形と考えられる。埋土は自然堆積であるが、遺構全体が削平されている。遺構内には、ピット(柱穴)が検出されている。ピットは3基(PP01～03)を検出されているが、いずれも柱痕が確認されなかった。PP01は直径0.25mで深さ0.3m、PP02は直径0.15mで深さ0.15m、PP03は直径0.4～0.5mで深さ0.1mを測る。床面は、ほぼ全体が硬化しているが、床面の掘り方埋土に確認されないことから、貼床を敷設していた痕跡は見られない。

遺物は、検出面、埋土中より縄文土器(11～14)および、多くの小破片が出土している。また、SD01に多くの縄文土器が流れ込んだものと考えられる。



第8図 SI19 竪穴建物跡

4 土坑跡

SK04土坑跡

SK04土坑跡は、X=-92885、Y=+27351付近に位置する。遺構の規模は、東西0.6m、南北0.7mでやや円形を呈し、深さ0.3mを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、非常にしまりのある黒褐色土の単層で自然堆積である。遺物は、埋土中から羽口(15)が出土している。

SK05土坑跡

SK05土坑跡は、X=-92880、Y=+27352付近に位置する。遺構の規模は、東西0.7m、南北0.6mでやや隅丸方形を呈し、深さ0.4mを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、非常にしまりのある黒褐色土で自然堆積である。遺物は、埋土中から縄文土器(16)が出土している。

SK06土坑跡

SK06土坑跡は、X=-92882、Y=+27350付近に位置する。遺構の規模は、東西0.7m、南北1.0mで小ピットを含む不整形を呈し、深さ0.6mを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、非常にしまりのある黒褐色土で自然堆積である。遺物は、埋土中から縄文土器(17)が出土している。

SK07土坑跡

SK07土坑跡は、X=-92882、Y=+27348付近に位置する。遺構の規模は、東西0.6m、南北0.6mでやや歪な円形を呈し、深さ0.4mを測る。開口部がやや崩落しており、底面はほぼ平坦である。埋土は、わずかな礫を含み、非常にしまりのある黒褐色土で自然堆積である。遺物は、埋土中から縄文土器(18)が出土している。

SK08土坑跡

SK08土坑跡は、X=-92882、Y=+27346付近に位置する。遺構の規模は、東西0.8m、南北0.8mでやや歪な方形を呈し、深さ0.25mを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、黒褐色土の単層で自然堆積である。遺物は、埋土中から縄文土器(19)が出土している。

SK09土坑跡

SK09土坑跡は、X=-92885、Y=+27353付近に位置する。遺構の規模は、東西0.6m、南北0.6mで不整形を呈し、深さ0.45mを測る。開口部がやや崩落しており、底面はほぼ平坦である。埋土は、非常にしまりのある黒褐色土の単層で自然堆積である。遺物は、埋土中から縄文土器の細片が出土している。

SK12土坑跡

SK12土坑跡は、X=-92886、Y=+27349付近に位置する。遺構の規模は、東西0.6m、南北0.65mでやや歪な方形を呈し、深さ0.15mを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、非常にしまりのない黒褐色土の単層で自然堆積である。埋土の特徴から、他の土坑跡とは性格が違うものと考えられる。遺物は、埋土中から縄文土器の細片が出土している。

SK13土坑跡

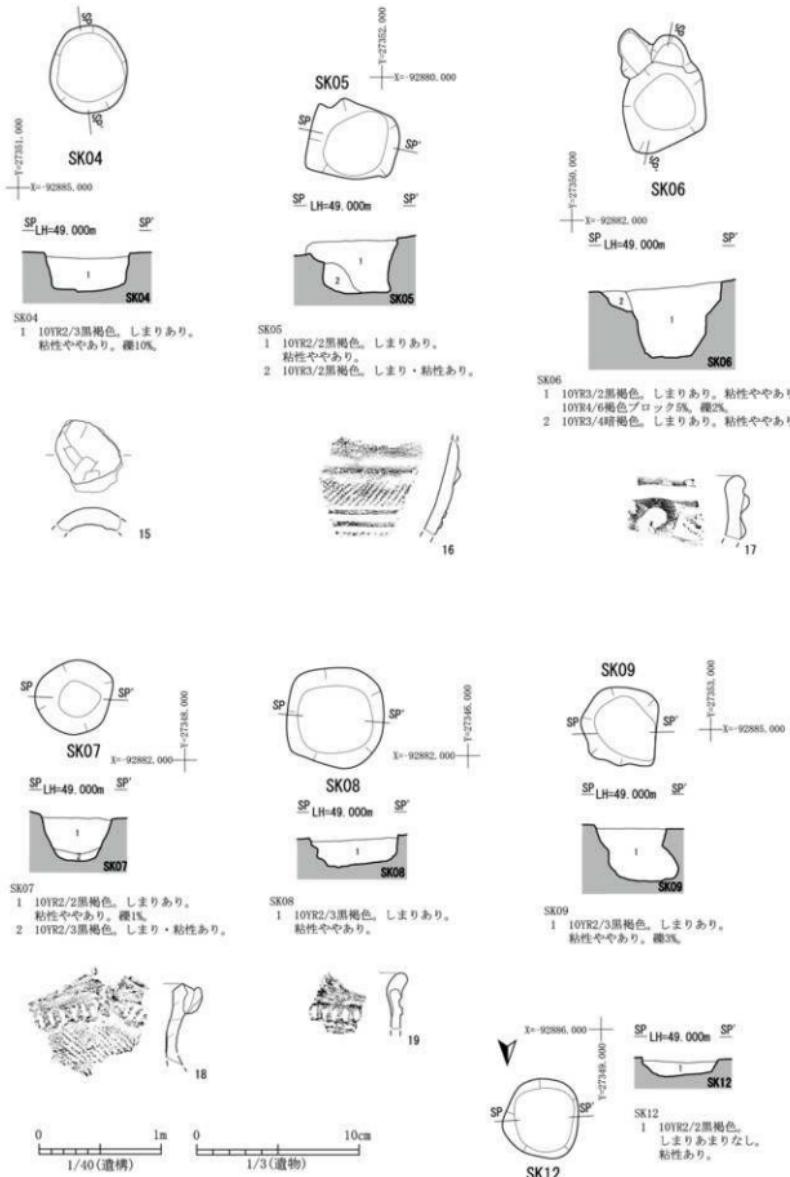
SK13土坑跡は、X=-92886、Y=+27347付近に位置する。遺構の規模は、東西0.6m、南北0.7mで梢円形を呈し、深さ0.6mを測る。柱穴のような掘り方で、底面はほぼ平坦である。埋土は、非常にしまりのある黒褐色土の単層で自然堆積である。遺物は、埋土中から縄文土器の細片が出土している。

SK14土坑跡

SK14土坑跡は、X=-92885、Y=+27349付近に位置する。遺構の規模は、東西0.7m、南北0.7mで不整形を呈し、深さ0.5mを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、黒褐色・暗褐色土で深くなるほどしまりがなくなる。礫をわずかに含み、自然堆積である。遺物は、埋土中から縄文土器(20)が出土している。

SK18土坑跡

SK18土坑跡は、X=-92876、Y=+27351付近に位置する。遺構の規模は、東西1.0m、南北0.8mで不整形を呈し、深さ0.5mを測る。開口部はかなり崩落しており、底面はほぼ平坦である。埋土は、非常にしまりのある黒褐色土で自然堆積である。遺物は、埋土中から縄文土器(21)・不明土製品(22)が出土している。



第9図 土坑跡(1)



第10図 土坑跡(2)

5 不明遺構

SX02不明遺構

SX02不明遺構は、X=-92883、Y=+27354付近に位置する。遺構の規模は、東西0.47m、南北0.5mで円形を呈し、深さ0.1mを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、焼土粒・炭化粒を少量含み、投げ込まれていることから、人為堆積の可能性がある。しかし、遺構そのものが被熱を受けている痕跡は確認されなかった。遺物は出土していない。

SX03不明遺構

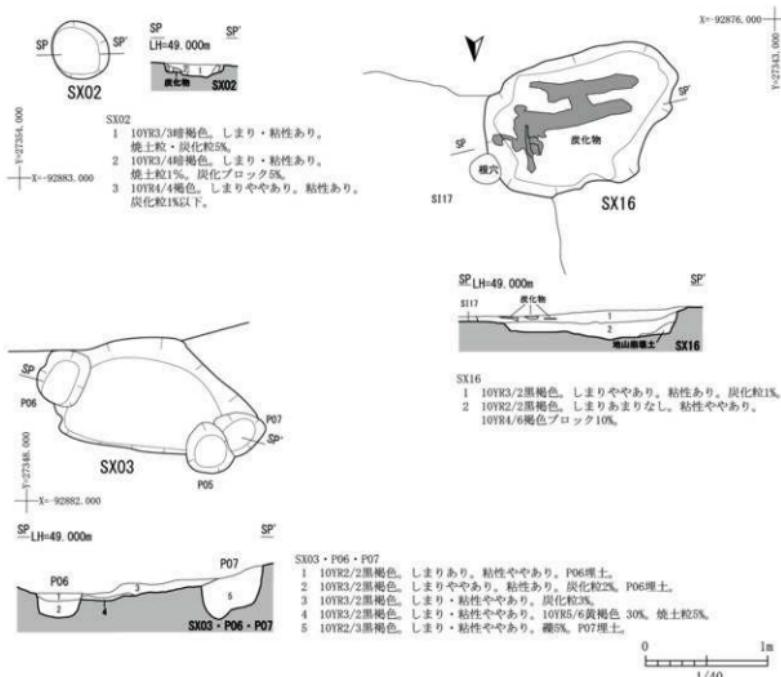
SX03不明遺構は、X=-92882、Y=+27348付近に位置する。遺構は、SD01溝(堀)跡・P05・P06・P07と重複し、SD01・P06よりも古く、P07よりも新しい遺構である。遺構の規模は、東西推定1.7m、南北0.95mで不整形を呈し、深さ0.1mを測る。開口部は小ピットによって破壊されており、底面はほぼ平坦である。埋土は、わずかに炭化物を含んでいるが、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SX16不明遺構

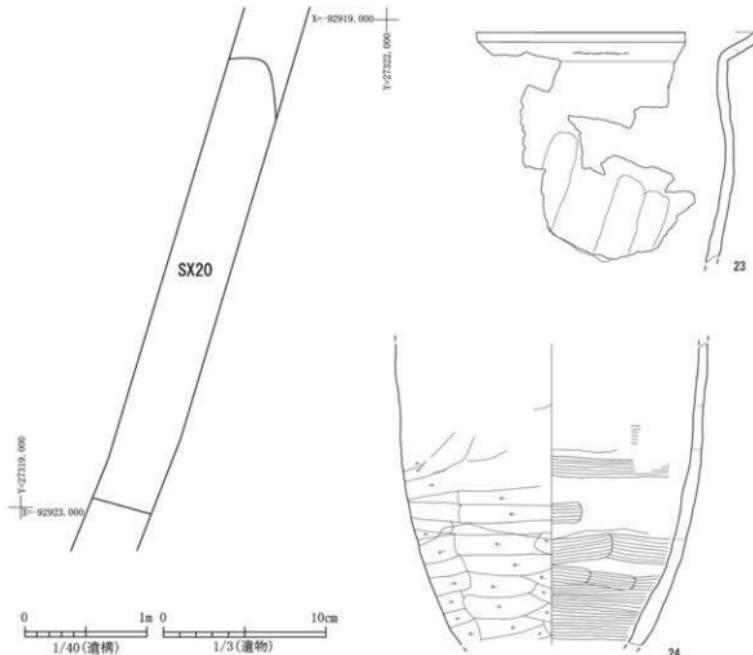
SX16不明遺構は、X=-92876、Y=+27343付近に位置する。遺構は、SI17堅穴建物跡と重複し、SI17よりも新しい遺構である。一部、根穴によって破壊されている。遺構の規模は、東西1.67m、南北1.12mで不整形を呈し、深さ0.28mを測る。開口部はやや崩落しており、底面はほぼ平坦である。また、炭化材が出土しており、意図的に投げ込まれた痕跡があることから、捨て場遺構と考えられる。埋土は、上層中(第1層)に炭化物を多く含み、下層中(第2層)からはほとんど炭化物が含まれていない。遺物は出土していない。

SX20不明遺構

SX20不明遺構は、X=-92919、Y=+27322付近に位置する。排水溝工事時に伴って検出され、遺構面より工事掘削が及ばないため、確認調査のみである(位置については、3頁の第2図遺跡周辺現況図を参照)。遺構の規模は、東西0.5m以上、南北3.8mを測り、堅穴建物あるいは堅穴状遺構が想定される。遺物は、検出面より土師器甕(23・24)が出土している。



第11図 不明遺構(1)



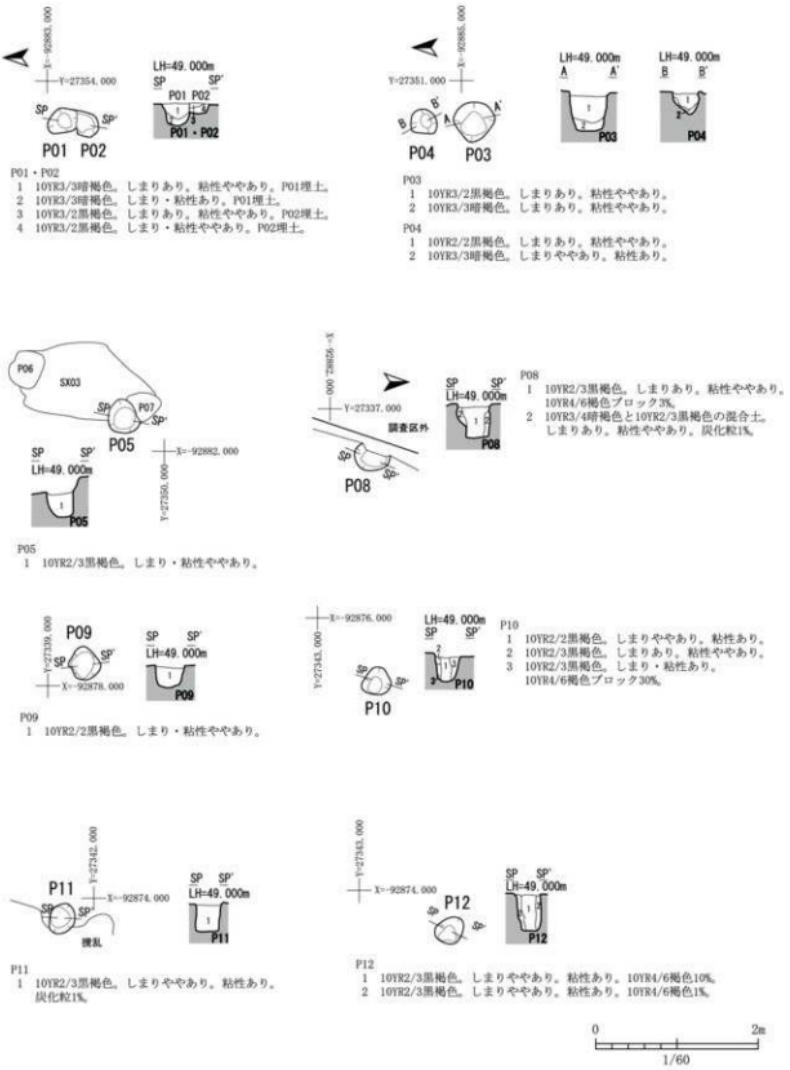
第12図 不明遺構(2)

6 柱穴状ピット

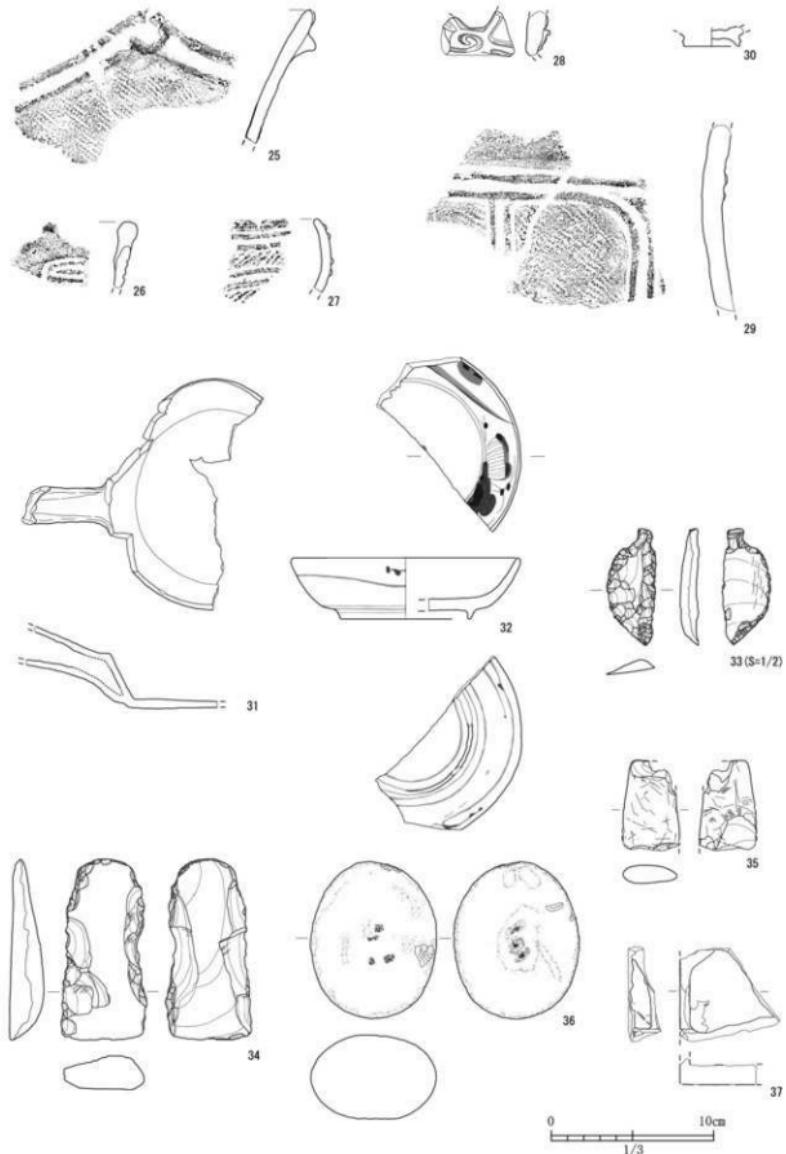
調査区内からは、12基の柱穴状ピットを検出した。柱穴状ピット群は、直径0.3～0.4m、深さ0.3～0.4mの小型で、埋土は黒褐色・暗褐色土を基本とする。また、P08・10・12は柱痕が確認されるが、建物などを構成する柱穴ではないものと推察される。

7 遺構外遺物

遺構と共に伴しない遺物は、第Ⅰ層・第Ⅱ層・搅乱などから出土している。特に、第Ⅱ層中・遺構検出面からは、縄文土器が顕著に出土する傾向にあるが、遺物包含層のような大量に出土する層位ではない。おそらく、SD01と同様な流れ込み遺物と考えられる。また、第Ⅰ層・搅乱からは、縄文土器、古代土器、近世・近現代陶磁器が出土している。主に、縄文土器(25～30)、陶器熔接鍋(31)、磁器染付皿(32)、石匙(33)、打製石斧(34)、磨製石斧?(35)、磨石(36)、硯(37)が出土している。



第13図 柱穴状ピット



第14図 遺構外遺物

IV　まとめ

下河原館(内館)跡は、今回の発掘調査の結果、遺構・遺物の性格から縄文時代・平安時代・中近世の複合遺跡であることが判明した。

調査区は、中世城館内に立地し、現在も堀跡・土塁跡が残る中世を主体とした遺跡と考えられる。別名「内館」とも呼ばれ、東館I(毘沙門館)・東館II遺跡を含めた大規模な城館跡で、これらの遺跡群は、西から連続して隣接し、それぞれ郭の一部であって、3つの郭によって構成される。それぞれの郭は北側にある自然の沢や、一部残る堀跡や土塁跡によって区画されており、段丘縁を利用した天然の要害・要衝であることが伺える。城主は下河原玄蕃とされているが、その詳細は不明である。

調査区の中心に位置するSD01溝(堀)跡については、埋土中から、近世磁器が出土していることにより、近世以降に埋没したと考えられる。また、明治時代に作成された『岩手縣陸中國膽澤郡下河原繪図』には、SD01と土塁跡の位置が描かれ、この時期まで存在していたことがわかる^(註1)。これについて、SD01と土塁跡は、中世城館に伴うものと推察されるが、その一方、現在もこの地域には古い屋敷地が点在しており、近世の屋敷地に付随するか、あるいは、明治時代まで存在した水田用水路の可能性も高い。

縄文時代は、中期の竪穴建物跡2棟が検出されている。ともに遺構埋土からは、縄文土器中期中葉の大木8a式を主体とした土器群が出土しており、この時期の集落跡の一端と考えられる。SI17竪穴建物跡からは埋設土器が出土しており、北側一部に焼土範囲が見られ、炉として使用していた可能性も否定できない。次に、竪穴建物跡の周囲から検出された土坑群(SK04・05・06・07・08・09・12・13・14・18)10基およびP03については、埋土中から縄文土器が出土していることや、埋土が非常にしまりがあること、単層または2層が多い共通性から、縄文時代の遺構の可能性がある。また、貯蔵穴や陥穴のような特徴が見られないことは、柱穴の可能性もあり、遺構がかなり削平された竪穴建物跡あるいは、掘立柱建物跡の痕跡とも想像される。

古代は、唯一、SX20を検出しているが、SD01からは平安時代(9世紀後半以降)の土師器や須恵器の小破片が出土している。調査区近辺には、古代の遺構が存在すると推察され、段丘の縁と北上川に隣接する立地条件から、この地に古代集落などが存在してもおかしくない。

【註】

註 1 東館II遺跡の報告書(岩手県文2000)では、明治期の絵図トレースが掲載されており、参照されたい。また、発掘調査では、中世城館期の掘立柱建物跡・堀跡が検出されている。

【参考文献】

- ・岩手県教育委員会1986『岩手県中世城館跡分布調査報告書』(岩手県文化財調査報告書第82集)
- ・(財)岩手県文化振興事業団理藏文化財センター 2000『東館II遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団理藏文化財調査報告書第366集)
- ・伊藤博幸2003「胆沢地域の歴史景観」(東北中世考古学会『遺跡と景観』)
- ・北上市教育委員会2004『鳩岡崎上の台遺跡(2002年度)』
- ・岩田貴之2004「大木8式土器小考-鳩岡崎上の台遺跡出土資料の分析から-」岩手考古学会『岩手考古学』第16号

第2表 遺物観察表

縄文土器

※口径・底径の()は推定値。器高の()は残存値。

No.	遺構名	位置 層位	種別 器種	計測値 cm	色調	部付・施文・調整など	胎土・焼成	残存率	分類・備考
5	SD10	埋土	縄文土器 深鉢	口径: 底径: 器高:(8.85)	外面:7.51W4/4幅 内面:5W4/1黒鉄	EL横化。	胎土:やや密 焼成:軟質	破片	大本3a式?。
6	ST17	棟上面 埋設土器	縄文土器 深鉢	口径:37.8 底径: 器高:(18.8)	外面:10W7/3にぶい黄根 内面:10W7/3にぶい黄根	LR横化。隆線。	胎土:やや密 焼成:軟質	1/2以下	口唇部4.1(内面)の一部が被削取。 大本3a式。
7	ST17	埋土	縄文土器 深鉢	口径:(12.8) 底径: 器高:(16.5)	外面:7.51W4/2幅 内面:10W3/1黒鉄	LR横化。隆線(満呂文)。	胎土:やや粗 焼成:軟質	1/2	全体がやや削減。 大本3a式。
8	ST17	埋土	縄文土器 小型折上器	口径:(5.0) 底径: 器高:5.5	外面:10W3/1黒鉄 内面:10W3/1黒鉄	把手。	胎土:やや密 焼成:軟質	2/3	砂粒多く含む。 大本3a式。
11	ST19	埋土	縄文土器 深鉢	口径: 底径: 器高:(16.7)	外面:7.51W5/6明褐 内面:7.51W4/4幅	LR横化。隆線(満呂文・満呂文)。	胎土:やや粗 焼成:軟質	破片	全体がやや削減。 大本3a式。
12	ST19	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(6.7)	外面:7.51W4/2S褐 内面:7.51W4/2S褐	EL横化。	胎土:やや密 焼成:軟質	破片	大本3a式?。
13	ST19	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(4.5)	外面:7.51W4/6明褐 内面:7.51W4/2S褐	LR横化。沈線。	胎土:やや密 焼成:軟質	破片	大本3a～b式。
14	ST19	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(5.15)	外面:10W7/4にぶい黄根 内面:7.51W4/4にぶい根	EL横化。隆線。	胎土:密 焼成:軟質	破片	大本3a式。
16	SK05	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(5.9)	外面:7.51W4/2S褐 内面:10W5/3にぶい黄根	LR横化。隆線。	胎土:やや密 焼成:軟質	破片	大本3a式。
17	SK06	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(4.5)	外面:7.51W6/6暗 内面:10W5/4暗褐	隆線(満呂文)。	胎土:やや密 焼成:軟質	破片	大本3a式。
18	SK07	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(5.1)	外面:10W3/3暗褐 内面:5W3/4にぶい赤鉄	LR横化。胎系側面压痕。	胎土:密 焼成:やや軟質	破片	大本7b～8a式。
19	SK08	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(3.4)	外面:7.51W5/3にぶい褐 内面:7.51W5/2にぶい褐	EL斜化。胎系側面压痕。	胎土:密 焼成:やや軟質	破片	大本7b～8a式。
20	SK14	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(5.3)	外面:10W4/2S灰褐 内面:10W4/2S灰褐	LR横化。隆線(満呂文)。沈線。	胎土:やや粗 焼成:軟質	破片	大本3a～b式。
21	SK18	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(3.35)	外面:10W3/3暗褐 内面:10W7/6明黄褐	LR横化。隆線(満呂文)。	胎土:やや粗 焼成:軟質	破片	大本3a式。
25	II層	縄文土器 深鉢	口径: 底径: 器高:(8.2)	外面:7.51W5/4にぶい褐 内面:5W6/6暗	EL横化。隆線(満呂文)。	胎土:やや密 焼成:軟質	破片	大本3a～b式。	
26	II層	縄文土器	口径: 底径: 器高:(3.6)	外面:5W6/6赤褐 内面:7.51W5/4にぶい褐	沈線。	胎土:密 焼成:軟質	破片	晚期～弥生?	
27	II層	縄文土器	口径: 底径: 器高:(4.55)	外面:7.51W5/4にぶい褐 内面:7.51W5/2S褐	LR横化。隆線。	胎土:密 焼成:軟質	破片	大本3a式。	
28	II層	縄文土器	口径: 底径: 器高:(2.8)	外面:10W6/3にぶい黄根 内面:7.51W5/4にぶい褐	隆線(満呂文)。	胎土:密 焼成:軟質	破片	大本3a式。	
29	複且	埋土	縄文土器 深鉢?	口径: 底径: 器高:(11.95)	外面:10W4/3にぶい黄根 内面:7.51W5/4にぶい褐	LR横化。隆線(満呂文)。	胎土:やや密 焼成:軟質	破片	砂粒や多く含む。 大本3a式。
30	複且	埋土	縄文土器	口径: 底径: 器高:(1.2)	外面:7.51W4/2S褐 内面:7.51W5/4にぶい褐		胎土:密 焼成:やや軟質	破片	台形。晚期。

土師器

※口径・底径の()は推定値。器高の()は残存値。

No.	遺構名	位置 層位	種別 器種	計測値 cm	色調	調整	胎土・焼成	残存率	分類・備考
23	SK20	表土	土師器 甕	口径: 底径: 器高:(14.0)	外面:5W6/8褐 内面:5W6/6褐	外面:クロ→ケズリ 内面:クロ: 底部:	胎土:密 焼成:軟質	破片	石英微量含む。全体 が擦減。
24	SK20	表土	土師器 甕	口径: 底径: 器高:(18.7)	外面:10W7/4にぶい黄根 内面:7.51W7/6褐	外面:ケズリ 内面:ナダ 底部:	胎土:密 焼成:軟質	1/2	石英魚量含む。全体 が擦減。

陶磁器

※口径・底径の()は推定値。器高の()は残存値。

No.	遺構名	位置 層位	種別 器種	計測値 cm	残存率	製作年代	備考
1	SD01	Cトレーンチ 堆土	磁器 塗付瓶	口径：底径： 器高：(2.35)	口縁部破片	近世	肥前産。
31		II層	陶器 結合鍋	口径：(4.4) 底径：(10.7) 器高：(5.1)	1/3	近世以降？	
32		II層	磁器 塗付瓶	口径：(4.3) 底径：(8.0) 器高：(3.8)	1/2	17世紀後半～18世紀前半。	肥前産。

土製品

※()は残存値。

No.	遺構名	位置 層位	種別 器種	計測値 cm	色調	粘土・焼成	残存率	備考
15	SK04	堆土	羽口	長さ：(4.45) 最大幅：(3.95) 最大厚：(1.1)	7.50R7/41.50-1相	粘土：白 焼成：軟質	破片	各面ケメリ。
22	SK18	堆土	不明	長さ：(3.4) 最大幅：(3.3) 最大厚：	18.06/6相	粘土：や小粗 焼成：軟質	破片	

石器・石製品

※()は残存値。

No.	遺構名	位置 層位	種類	計測値 cm	重量 g	石材	残存率	備考
2	SD01	堆土	石棒?	長さ：(8.05) 最大幅：6.0 最大厚：3.55	241.64	安山岩	破片	粗雑な擦痕。
3	SD01	堆土	磨製石斧	長さ：20.4 最大幅：5.2 最大厚：2.7	433.52	砂岩	完形	
4	SD01	堆土	磨石	長さ：8.6 最大幅：7.6 最大厚：5.9	474.17	凝灰岩	完形	
9	SI17	堆土	石皿	長さ：18.6 最大幅：15.9 最大厚：4.7	1897.26		2/3	粗雑な擦痕。
10	SI17	堆土	石皿	長さ：15.8 最大幅：(12.4) 最大厚：5.6	1282.43	安山岩	破片?	粗雑な擦痕、被熱痕。
33	複数		石選	長さ：4.75 最大幅：2.0 最大厚：0.45	4.83	頁岩	完形	錐型。
34	II層		打製石斧?	長さ：11.3 最大幅：5.3 最大厚：2.05	146.38	砂岩	完形	
35	II層		磨製石斧?	長さ：(5.6) 最大幅：3.55 最大厚：1.1	28.22	粘板岩	破片	
36	複数		磨石	長さ：9.75 最大幅：7.8 最大厚：5.2	548.61	頁岩	完形	打瓶。
37	II層		鏡	長さ：(5.9) 最大幅：(6.2) 最大厚：(2.0)	61.13		破片	

写 真 図 版



遺跡遠景（東上空から）



調査区全景（西上空から）

写真図版 1 調査区（1）



調査前（南東から）



調査区外土壌跡（東上空から）



SD01一部掘削（西から）



SD01A断面（東から）



SD01B断面（東から）

写真図版2 調査区(2)・SD01(1)



SD01C 断面（東から）



SD10 完掘（南から）



SI17 完掘（南から）



SI17 断面（南から）

写真図版 3 SD01(2)・SD10・SI17(1)



SI17 検出状況（南から）



SI17 埋設土器断面（南から）



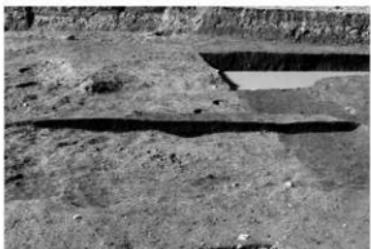
SI17PP02 確検出状況（南から）



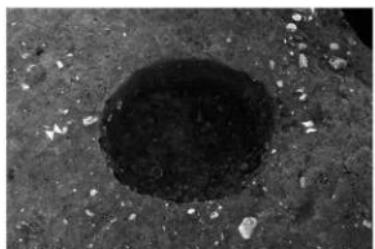
SI17 掘削作業（南から）



SI19 完掘（南から）



SI19 断面（東から）

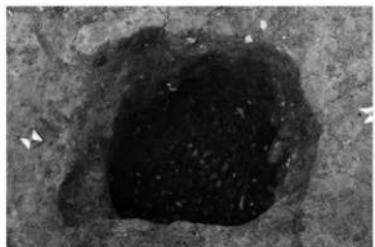


SK04 完掘（西から）



SK04 断面（西から）

写真図版 4 SI17(2)・SI19・土坑跡 (1)



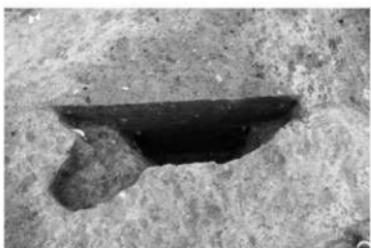
SK05 完掘（南から）



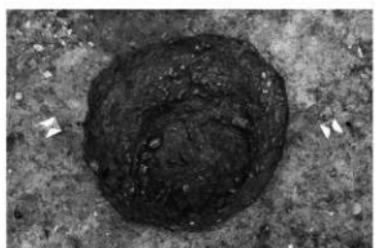
SK05 断面（南から）



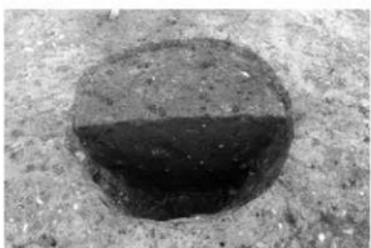
SK06 完掘（西から）



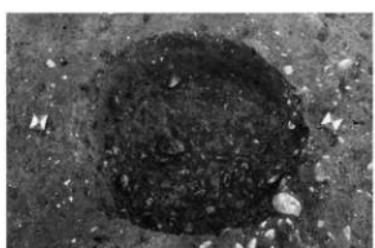
SK06 断面（西から）



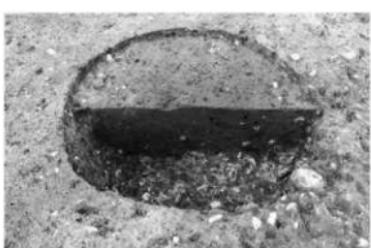
SK07 完掘（南から）



SK07 断面（南から）

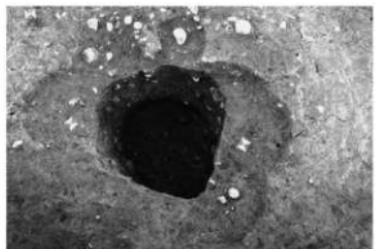


SK08 完掘（南から）

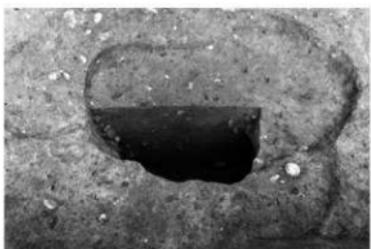


SK08 断面（南から）

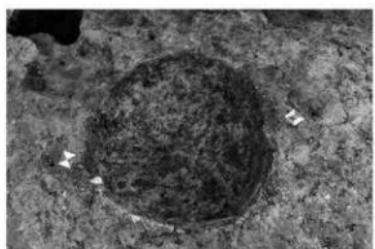
写真図版 5 土坑跡（2）



SK09 完掘（南から）



SK09 断面（南から）



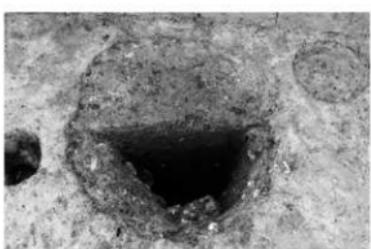
SK12 完掘（北から）



SK12 断面（北から）



SK13 完掘（北から）



SK13 断面（北から）



SK14 完掘（南から）



SK14 断面（南から）

写真図版 6 土坑跡（3）



SK18 完掘（南から）



SK18 断面（南西から）



SX02 断面（南から）



SX03 完掘（南から）



SX03 断面（南西から）



SX16 炭化材出土状況（南から）



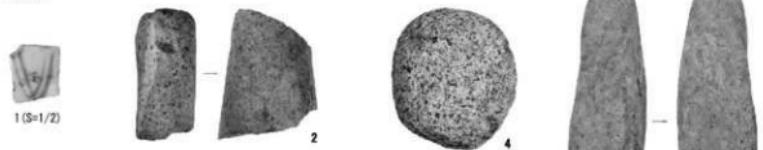
SX16 断面（北から）



SX20 検出状況（北西から）

写真図版 7 土坑跡(4)・不明遺構

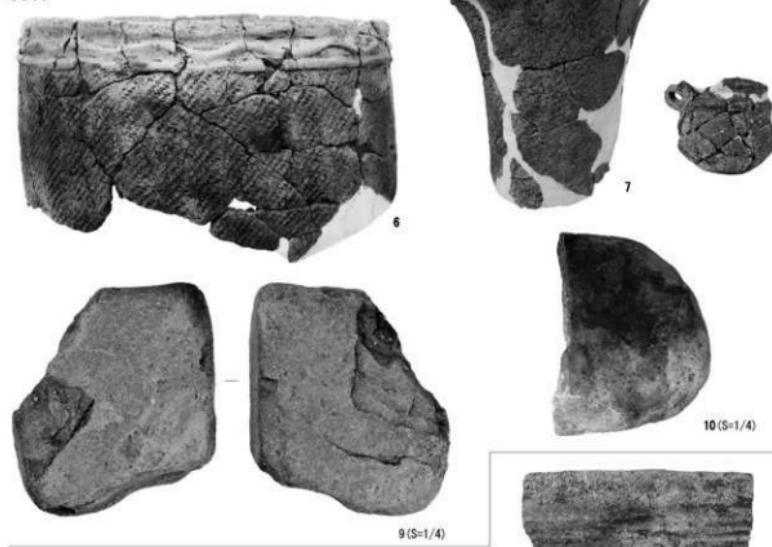
SD01



SD10



SI17



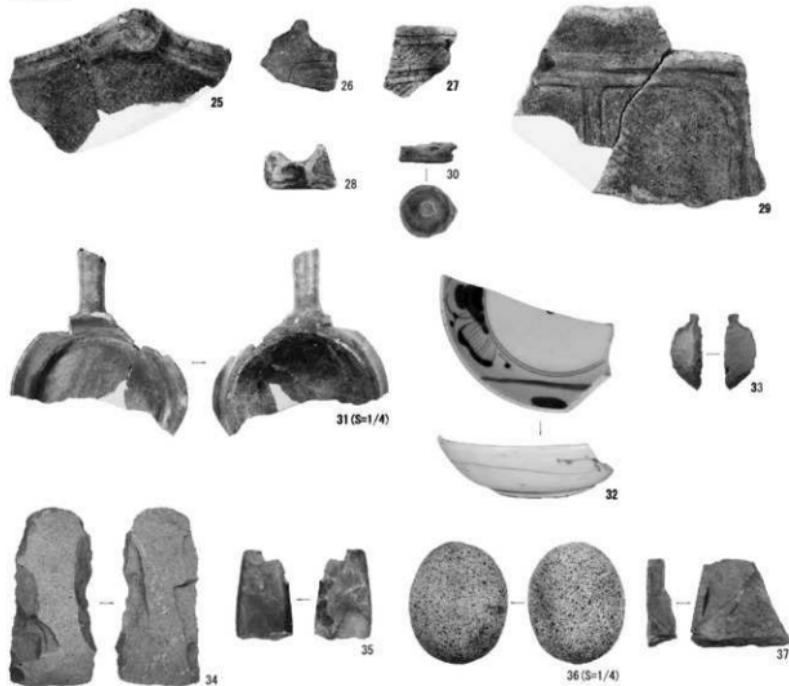
SI19



写真図版 8 出土遺物 (1)



遺構外



写真図版 9 出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	しもがわらだて（うちだて）あと							
書名	下河原館（内館）跡							
副書名	集合住宅建設に伴う緊急発掘調査							
卷次								
シリーズ名	奥州市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第16集							
編著者名	遠藤栄一 中村晃菜							
編集機関	一般財団法人奥州市文化振興財団 奥州市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字九蔵田96-1 Tel0197-22-4400							
発行年月日	西暦2019年8月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
しもがわらだて 下河原館 （うちだて）あと (内館)跡	おうしゅうしみずさわ 奥州市水沢 きくらかわあざひがしだて 佐倉河字東館	03215	NE16-0305	39度 09分 46秒	141度 08分 59秒	2018.10.5 ～11.8	241	集合住宅 建設に伴 う緊急発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
下河原館 (内館)跡	散布地 城館跡	縄文時代 古代 中世 近世	溝(堀)跡 堅穴建物跡 土坑跡 不明遺構 ピット	縄文土器 土師器 近世陶磁器 石器・石製品 他	段丘縁辺部に立地 する中世の城館跡。 溝(堀)跡を検出。 調査区外には土里跡 が残存。 縄文時代の堅穴建 物跡を検出。表土中 からは縄文土器の破 片が出土。			

奥州市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第16集

下河原館(内館)跡

印刷 令和元年8月31日

発行 令和元年8月31日

編 集 奥州市埋蔵文化財調査センター

〒023-0003 奥州市水沢佐倉河字九藏田96-1

電話 0197-22-4400

発 行 奥州市教育委員会

〒023-1192 奥州市江刺字大通り1-8

電話 0197-35-2111

一般財団法人奥州市文化振興財団

〒023-0003 奥州市水沢佐倉河字石橋41

電話 0197-22-6622

印 刷 あべ印刷株式会社

〒023-0003 奥州市水沢佐倉河字東広町60

電話 0197-24-8303
